

平成 29 年度 兵庫県外国人県民共生会議議事録

- 1 日 時 平成 29 年 9 月 5 日 (火) 10:30～12:20
- 2 場 所 海外移住と文化の交流センター 5 F ホール
- 3 議 題 県政 150 周年に向けた取組み
～兵庫の多文化共生の歴史を振り返り、今後の活動を考える～

○県政 150 周年記念事業について説明（企画県民部地域創生局地域創生課 県政 150 周年記念事業室）

○講 演

テーマ：旧居留地等の歴史とともに兵庫の 150 年を振り返る（一般財団法人神戸万国医療財団）

○発表 1

テーマ：神戸華僑総会の歴史の振り返りと今後の多文化共生に向けた活動の展望（神戸華僑総会）

○発表 2

テーマ：在日本印度商業会議所の歴史の振り返りと今後の多文化共生に向けた活動の展望

（在日本印度商業会議所）

【意見交換】

◇構成団体 1

- ・ 15 年ほど前に、神戸港のことを調べる機会があった。
- ・ 初めはコリアン関係を調べ、次に、戦争中に中国人が強制連行で 900 人ぐらい連れて来られたことが分かった。
- ・ 次に連合軍のことを調べ、横山ノック氏が連合軍の捕虜と語っているラジオ番組があった。
- ・ 戦争中は、神戸にはコリアン、中国人、連合軍の捕虜の方が結構おられた。
- ・ 神戸には、コリアン、中国人、連合軍の捕虜の方で生き残られていた方があり、その人たちを出版記念に招待した。

◇構成団体 2

- ・ 神戸には、様々な外国人が住んでいる。
- ・ 今、〇〇ファーストが流行になっている。ヨーロッパでもその傾向がある。
- ・ 1923 年の関東大震災の際に朝鮮人の虐殺が発生した。その際、鶴見の警察署長である大川常吉は 300 人の朝鮮人を救い、命を守られた人は、神戸に移住したとの記録がある。
- ・ しかし、神戸に来た人たちの記録はない。虐殺から逃れた人を神戸が受入れたことをどのように残していくのかについて考えている。
- ・ 来年はイベントの年になるが、兵庫県立大学などに、神戸の移民の歴史を研究する機関を設けて欲しい。探せば、どこかに記録があるのではないか。
- ・ これは、兵庫県の人たちにネガティブな気持ちを持たせるのではなく、そのことを伝えることで人間らしい行動を振り返ることができる。
- ・ 杉浦千畝がビザを発給した人たちが神戸港に来た。そして、それを受入れた人もいる。
- ・ 明るい開港の歴史とともに、迫害された人たちに対し、兵庫県がどのように振る舞ってきたのか等を研究する機関を是非設けていただきたい。

◇構成団体 3

- ・ 緊急に申し上げたいことがある。
- ・ 外国人が長く住んでいく中で医療の問題がある。その中で言葉の壁にぶつかることがある。
- ・ 外国人コミュニティの自助努力で何とか乗り越えてきた。
- ・ 私たちは、14 年間、兵庫や神戸で医療通訳の問題に取り組んできた。

- ・ 現在では、病院の協力を得て、医療通訳料を病院と患者負担で賄うモデル事業を行なっている。
- ・ 本日まで出席されている方には、医療通訳としてご協力をいただいている。また、県の国際交流課にも協力をいただいている。神戸万国医療財団にも寄付をいただいている。
- ・ 通信料等は何とか賄えているが、事務業務を含めたコーディネートを担当している人件費は賄えておらず手弁当で運営している。
- ・ 6人スタッフがいますが、その内2人が医療通訳のコーディネートの係りきり状態になっている。
- ・ 医療通訳の実績は、今年度、1000件を超える見込みであり、非常にニーズがある。
- ・ 6人の内、2人の手を取られてしまうと、団体としての存続が危ぶまれる状況になっている。
- ・ 少なくとも、コーディネートをしている人の経費の半額だけでも捻出しないと続けられないので、何とか支援をお願いする。

◇構成団体4

- ・ 阪神・淡路大震災があった際、17階で寝ていた。
- ・ 日本の防災は非常に優れている。自衛隊も早急に動き、九州の災害の際も活動していた。
- ・ 防災に関して神戸の貢献は非常に大きい。
- ・ ネパールで大きな地震があった際も、神戸等から多くの支援をいただいた。この場でお礼を申し上げる。
- ・ 私はネパールで防災に携わり、復旧に尽力したいと思っているので、神戸の知恵をいただければ幸いです。

◇構成団体5

- ・ 神戸開港150周年、神戸華僑の歴史150周年、県も150周年となっている。
- ・ 我々華僑は、神戸に居住できていることに感謝している。
- ・ 神戸華僑150年の中に、学校、幼稚園、博物館等がある。
- ・ 神戸市民のご理解、そして、県・市の手厚いご理解がなければ、今日のように問題なく生活はできなかつた。心より感謝している。
- ・ 他府県の華僑との意見交換においても、「君たちはいいところに住んでいる。」と言われている。
- ・ 今、県下に12校の外国人学校がある。兵庫県の多文化共生社会の実現に関し、各校において、自分たちのできる範囲で地域社会に貢献し、開かれた学校として存在している。
- ・ 学校に対する兵庫県のご支援に感謝する。

◇構成団体6

- ・ 私は日本に来て短いため、歴史についてはあまり詳しくないが、今日、多くのことを学ばせていただいた。
- ・ 神戸は外国人が多い。ベトナム語の学校はないが、中華同文や英語及び韓国語の学校ができおり、すごいと感じている。
- ・ ベトナム人の定住者は落ち着いてきている。最近では、留学生が多くなり、色々な課題が発生している。
- ・ 今、日本語学校が多く、以前は長田区に多くあったが、最近では、兵庫区の方が多くなっている。
- ・ 自費の方が多く、生活面や学校やアルバイト等の問題が発生しているので、今後ともご支援をお願いする。

◇構成団体7

- ・ 私たちのところに来られる方は、外国からの短期滞在の方が多く、あまり歴史について詳しくない。今回、色々なことを勉強させていただいた。
- ・ 短い滞在の方も、社会に貢献することができるように、何が起こった際には集まっている。
- ・ 神戸の震災の際、いろいろなことを行なった。東日本大震災や熊本の震災の際も、集まって様々な支援を行なった。
- ・ 外国人であっても、日本人のために支援し、社会に貢献したいという気持ちがある。

◇構成団体 8

- ・ ラテンコミュニティでも、スペイン語圏の国だけでなく、ポルトガル語圏の国の方もいる。
- ・ スペイン語圏の国の方は、日本に来てからの歴史は26年と短い。
- ・ 2世代ぐらいのコミュニティなので、日常生活に困っている点が多くある。
- ・ ここに住んでいるニューカマー、オールドカマーが出て行かないような環境を作っていく。
- ・ 私自身、阪神・淡路大震災の経験をしている。その際、ほとんどの方が他に行った。そして、仕事がない時でも出て行った。
- ・ 兵庫県や神戸市には、長い歴史の外国人コミュニティがあるのに、新しい世代や子ども達のはつきり理解していない。
- ・ 150周年の事業を通じて、多文化な兵庫県であることを伝えていく。

◇構成団体 9

- ・ 兵庫県は、多文化共生に真摯に取り組んでおられると実感している。
- ・ 兵庫県が、私たち外国人団体や外国人との共存に努力されていることについては、日本全国の中でも胸を張って言える。
- ・ 特に、2年前の震災20年を契機に、外国人団体と一緒に多文化共生をアピールしたことは、全国からも非常に画期的だと言われている。兵庫県に住んでいる私も、非常に誇らしい。
- ・ だからこそ、ヘイトスピーチの問題が非常に気になる。これについて、明確な対処、具体的な対策を検討して、行動を起こすことが大事である。
- ・ 特に、昨年法律ができ、露骨な街頭でのヘイトスピーチは減少傾向にあるが、それに代わり一層激しくなっているのはネット世界でのヘイトの拡散である。
- ・ 兵庫県内の自治体で、かなり前から対策を取っているところがある。尼崎市は、7年前からモニタリングを開始し、ヘイトに対する監視体制を強めている。3年前からはヘイトスピーチを中心課題に置き、ダイバーシティ推進課を中心としながら、主に2チャンネルのヘイトについて、市からその都度削除要請をしている。
- ・ 県としても同じ取組みを検討いただくとともに、市長会や担当部署が集まる会議において、尼崎市をモデルケースにしながら、拡散していく取組みをお願いする。

◇構成団体 10

- ・ 本日は、華僑総会の発表をさせていただき感謝申し上げます。
- ・ 私たち華僑総会は、神戸開港150年、県政150年を踏まえた上で、神戸華僑150年のようなテーマで歴史を振り返るパネル展示等を計画している。その際には、ご協力をお願いする。

◇構成団体 11

- ・ 私自身、神戸に住み始めて4年目に、阪神・淡路大震災を経験した。
- ・ それまでは、外国人であると感じていたが、震災時は、国籍は関係なくお互い助け合い、神戸が変わった感じがした。
- ・ 先日行なわれたパーティに参加した際、三木市には多くのシリア人がいることを知った。
- ・ 現在、高校の教師として、グローバリズムという時事問題を教えているが、近くに、自分の国、自分の県で、助け合っていることを知らないと感じている。
- ・ 今は、インターネットの時代で何でも調べることができる。しかし、もう少し若い人たちが、話し合い、ふれあい、理解できる場ができればと感じている。

◇構成団体 12

- ・ 今回、兵庫県が150周年を迎えることを嬉しく思う。
- ・ 私たちニューカマーとして、これからの世代の子ども達のことを考えている。
- ・ 子ども達の教育については、継続していきたい。
- ・ 兵庫県や神戸には、子ども達の居場所があり、良く見られている。私たちだけではなく、ベトナムの方たちも含め、これからもずっと続けて欲しい。

◇構成団体 1 3

- ・ 私は日本に来て 30 年ぐらいになる。
- ・ 子どもが小さい時に、阪神・淡路大震災を経験した。
- ・ 震災際、友人のお風呂が使えない時に、お風呂を使っていただき、おにぎりを渡した。
- ・ 人間の繋がりが非常に大事である。
- ・ 最近起こっている災害等を見ていると、子ども達の未来を守る社会を作らないといけないと感じている。私自身、力はないが、少しでも子ども達の未来の力になれるようにする。

○事務局 1

- ・ 先ほどご議論、ご講演いただいた 150 周年の歴史、取組みなどについて、次に活かされるように願っている。
- ・ ヘイトスピーチの問題、教育の問題、非常に重要な問題を後半でご発言いただいた。
- ・ ヘイトスピーチの問題は、北朝鮮の緊張問題と国内の在日コリアンにどのように影響するか懸念される。
- ・ 今年は、日系、日本人の強制収容の 75 周年でもある。
- ・ 真珠湾攻撃が起こり、42 年の 5 月に強制収容されることになった。そういう負の歴史を踏まえながら、非常に似たような状況になって、国内に住んでいる、国籍を問わず国内に住んでいる、私たちマジョリティの人達の、隣人や当事者の人達に影響が及ばないように、社会全体で監視して守っていくことが、本当に大事である。

○事務局 2

- ・ 兵庫・神戸の歴史を振り返って、外国人社会の存在をどのような形で伝えていくのかについて、いろいろな角度からご意見をいただくことができた。感謝申し上げる。
- ・ 移民の歴史を研究する機関の設置について提言があった。分かりましたとはなかなか返事はできないが、検討させていただく。
- ・ 医療通訳のコーディネーターの支援について、どういう形があり得るのか検討させていただく。
- ・ ネパールの地震についてお話があったが、復旧状況などを研究し、発信することを 150 周年の事業として行なっていただいてもよい。連携事業として行なっていただければ、少しは支援できるので、ご検討をお願いします。
- ・ 12 校の外国人学校が開かれた学校として活動していることについて、その状況をうまく発信する状況を作っていただければと思いますので、ご検討をお願いします。
- ・ 留学生が増えいろいろ相談があるというお話があったが、どのような相談体制を作り上げていくのがいいのか、ご提言があるようでしたら、相談に乗らせていただく。
- ・ 短期滞在者であるためにあまり神戸の歴史を理解していないとのご発言があった。いい機会ですので、歴史を理解していただくようなイベントか展示かシンポジウム等を計画していただければと思います。
- ・ 多文化ひょうごを紹介するような機会を作ってはどうかとの提言をいただいた。是非、一緒に考えさせて下さい。
- ・ ネットの規制についてお話があった。ネットに関し、私も選挙で随分いじめられたので、人ごとではない。ネット規制は難しい。特に、フェイクニュース対策は非常に難しい。それよりも悪質なヘイトニュースですから、どのような対応があるのか検討・研究させて下さい。尼崎市についても少し勉強させて下さい。
- ・ 華僑総会の歴史のパネル展示を計画しているとのことのご発言があった。お役に立てることがあれば、我々も支援させていただく。
- ・ 若い人たちに多文化共生の実態を理解してもらおう機会を作りたいとのことですが、是非、そのような催しをご検討いただきたい。我々もその催しに支援をさせていただく。
- ・ 居場所の重要性についてご発言があった。この移住センターは神戸にあるが、神戸以外をどうするのかについては、長年の懸案になっている。それについては、検討させていただく。

- 災害に備えて子ども達の未来の安全をどのように確保するのかというお話があった。非常に大きなテーマですが、災害と外国人、少し区別して言えば、居住している外国人の安全をどのように確保するのかという問題と、インバウンド(外国人観光客)の安全をどのように確保するのが、総領事館サミットでいつもテーマになり、議論をしているがなかなか決め手がない。ほとんどの方が携帯をお持ちなので、いざという時は、携帯に「〇〇に避難所に避難して下さい。」という情報を発信していくことを考えないといけない。しかし、その携帯番号を登録する必要があるので、外国の方が日本に入国される際に、そのようなことができる仕組みを作っていくことが重要であると考えている。今回初参加でしたが、今後も多文化共生会議にご出席いただくようお願いする。
- 150年は、兵庫県や神戸だけではない。そこで生活をしてこられた外国人の方の歴史でもある。それを踏まえながら、明日・未来にどのように繋げていくのか、未来をどのように切り開いていくのが基本的なテーマである。そのような意味で、私たち自身もどのような形で展開していくのがいいのか考えているが、皆様方にもご検討していただくようお願いする。